

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-----------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 1292500145 | | |
| 法人名 | 株式会社 MOUNT FLOW | | |
| 事業所名 | クララ清流武番館 | | |
| 所在地 | 千葉県流山市古間木313-6 | | |
| 自己評価作成日 | 平成29年11月20日 | 評価結果市町村受理日 | 平成30年3月23日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|----------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人ACOPA |
| 所在地 | 我孫子市本町3-7-10 |
| 訪問調査日 | 平成29年12月4日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

残存機能を活かすことを常に心がけ、利用者様に尊敬の念を持ちつつも、本当の家族のように接し、笑顔に溢れたケアをしている。心身共に、常に異変を感じ「細やかな変化の気づき」をスタッフ一同心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設5年目の、もはや新しいとは言えない、立派なホームに成長した姿を見ることができた。施設長(オーナー)、管理者、ベテラン職員の連携で、利用者・家族から高い信頼と評価を得ている。管理者は、特に人材育成については長期的な視野と率先垂範を旨とした持論を実践し、明るいホームの実現につなげている。特徴的なのは日常の外出支援の徹底していることであろう。利用者の健康に配慮しながら、とにかく積極的に散歩に出かけている。グループホームとして、とかく課題になりがちな地域との連携についても、ホームに入りきれないほどの地域の方が集まる音楽会などのイベントが開催できるまでになったことは喜ばしい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します (○ 印を記入ください)

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価(事業所記入) | 外部評価(ACOPA記入) | |
|-------------------|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 利用者様を「尊い存在として大切に思う心」を理念として共有し、丁寧なケアを心がけています。 | 創設時の理念と、その原点にある利用者の尊厳の尊重という思いをひたすらに追及している。施設長と管理者は日々意見を闘わせながら介護の質の向上に努めている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | お花見、夏祭りへの参加、音楽会とお茶会への招待をし、交流を深めています。 | 近くの団地主催の夏祭りに参加したり、ホームで開催する音楽会に多数の地域の方を招待するなど、相互に和やかな協力関係が築かれている。行事の連絡には自治会の掲示板や回覧板が活用されている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 避難訓練などに地域の方々にも参加して頂き、認知症の人への理解を深めてもらっている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | そのように行っている。 | 当ホームと、隣接する本館と交互に、隔月に運営推進会議を開催している。流山市では市が作成した議事録の書式が採用されていて、議事内容に偏りのない会議の工夫ができています。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 運営推進会議にご出席の時や、グループホーム連絡会、市主催の認知症キャンペーンの機会などを通して、協力関係を築くようにしている。 | 市民祭りでホームとしてブースを出展し、認知症のキャンペーンに協力するなど、市の介護支援課と連携ができています。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 利用者様の身体に異変がないか常に把握し、日中は施錠なくオープンな生活環境で身体拘束をしないケアを行っています。 | 市開催の身体拘束に関する研修に職員を参加させて理解を深めると同時に人材育成の一助としている。利用者様を大切な存在として、言葉がけにも個性を尊重し、親しい中にも礼儀ありを心がけている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている | 自分がそのように介護されたら・・・との視点を持つこと、言葉での虐待を行わないようスタッフ同志注意をし、管理者が指導したりと防止に努めている。外部研修も今後活用したい。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価(事業所記入) | 外部評価(ACOPA記入) | |
|----|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 今後は学ぶ機会を持ちたい。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約締結前には十分な説明を行い、疑問点についても対応している。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 運営推進会議においてご家族に意見を表す機会があり、それらを運営に反映させています。 | 運営推進会議には家族の参加が多く、家族の関心は高い。体調などについて、電話での相談が多いのも特徴である。アンケート調査でも家族の満足度は高い。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 日々そのような機会があり、反映させている。 | 社員と臨時職員をペアとしたOJTをベースにして人材の育成が行われており、職員の意見を吸い上げやすい仕組みができている。人事考課の過程での話し合いでもボトムアップに配慮した運営がなされている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 処遇改善加算Ⅰを取得するのに伴い、賃金規程を改定した。制度の意図を理解すればやりがいや向上心に繋がる。個々の努力や実績を言葉で伝えることによっても行っている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 代表者自らケアについて手本を見せながら丁寧に指導している。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | まず管理者が同業者と頻りに交流し、ネットワーク作りや勉強会に参加している。市内施設全体での質の向上を目指している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価(事業所記入) | 外部評価(ACOPA記入) | |
|-----------------------------|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | まずはご本人との信頼関係を築けるよう、傾聴し寄り添うケアを行い、安心して生活して頂けるような環境作りを心がけている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 管理者は入居契約前からご家族から要望や不安なことを聞く機会を設けている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ご家族だけでなくご本人にお会いすることにより、見極めのための努力をしている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 残存機能を活かすことを常に心掛け、出来ることはご自分で行って頂くよう支援し、一つ屋根の下で共に暮らす家族として生活してもらえるように努めている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 会議にお出での際にはご家族とご本人との関係作りの機会を設けている。工作でご家族へのプレゼントを作ったりして家族を思う気持ちや絆を大切にしていだけるよう支援している。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | ご家族対応での馴染みのある場所へのお出かけの時には体調管理や心理状況を整えて送り出せるよう支援している。なかなか会えない知人には手紙を書いたり、なじみの場所の写真を見たりしている。 | 日ごろ散歩に出た折に近所の人たちとお喋りをしたり、皆でペン習字を練習して家族や友人に年賀状や暑中見舞状を出したりと、馴染みの関係が継続できるよう支援している。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 食事時間、レクの時間などそれぞれご利用者同士が触れ合えるよう座席の工夫をしている。全員が参加できるレクを行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価(事業所記入) | 外部評価(ACOPA記入) | |
|------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退居後も相談や支援に努めている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | ご本人とのコミュニケーション作りを徹底し、その中で思いや希望を把握できるように努めている。 | 声掛けの仕方や目線、軽いタッチなど、利用者との接し方を工夫し、安心に基づく信頼関係を通じて本人の意向を引き出すよう心掛けている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | ご本人やご家族からお聞きしたり、在宅中の介護サービス利用状況をできるだけ詳しく把握するように努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 個別ケース記録によりスタッフ一同共有して現状を把握している。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 介護計画の中での課題、目標、ケアの在り方をご本人を取り巻くもの同士の話し合いを重視し、スタッフ全員で行っているモニタリングから見直しを図っている。 | 日ごろのケアや家族とのやり取りの中で、課題を抽出しケアプランに反映させている。身体的な変化だけにとどまらず気持ちの上での変化に対しても個別カンファレンスで迅速に対応できるよう努めている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個別の記録は24時間を通して記入しており、スタッフ間でも共有し、実践や介護計画に反映している。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 病院への受診など、ご家族の状況によってスタッフ対応で受診に行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価(事業所記入) | 外部評価(ACOPA記入) | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | お散歩では近所の方が育てた季節の花が咲く道を歩きます。桜の時期には近くの公園へ花見に行ったり、町内納涼祭に出かけて行ったりと地域資源を楽しんでいる。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 基本的には協力医療機関があるが、ご希望の医療機関があればそちらで医療を受けていただき、受診に必要な情報を提供している。 | 入居時に施設の訪問診療医に切り替えるかどうかの選択をしてもらっている。訪問診療医に変える場合は、従来のかかりつけ医から診療情報提供書の提供を受け、確実な引継ぎができるよう支援を行っている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 看護職は施設内にいない。往診の際には医師へ情報や気づきを伝え、適切な診察が受けられるように支援している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入退院時、医療機関とのサマリーの提供をし合って、早期退院や退院後のスムーズな生活に繋がるよう情報交換に努めている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | ご本人の状態を踏まえながらご家族やご本人の意向をくみつつ、事業所としてできることを説明して行く予定。 | 入居時に家族と、重度化した場合の対応を話し合っている。利用者の変化に応じてその都度家族と話し合い、ホームでの看取り、医療施設へ入院などの方向性を決めている。経験の浅いスタッフには経験豊かな施設長から終末期の対応についての指導を受ける場を設けている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 119番対応マニュアルもあり、実際急変や事故があった際、救急車が来るまでの対応は把握し実践している。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 消防訓練を年2回行い、都度反省点改善点を次に活かすようにしている。災害時の対応マニュアルも作成済。今後避難場所までの避難経路や避難方法含めて訓練したい。 | 年2回の避難訓練を行っている。訓練時に不穩になる人もいるため、マンツーマンで利用者につき添い、個別に様子を観察し記録して非常時の対応の指針としている。災害時の自治会や消防署、警察との協力体制もできている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価(事業所記入) | 外部評価(ACOPA記入) | |
|----------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 言葉遣いや接し方においても人格を損ねることのないように心がけている。安心して生活できるよう常に声かけや話を聞くよう心がけている。 | 排泄や入浴は同性介助を行っている。印刷物への顔写真の掲載は、施設外に出すものについてはその都度家族に了承を得るなど、プライバシーに配慮し、施設の理念に沿った対応がなされている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | こちらからの呼びかけが一方的にならないように、必ず意思を尊重できるように配慮している。話すのが苦手な方は表情からくみ取り、ご本人の意向に沿うよう支援しています。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | レクリエーションなど行うが、無理強いしない。ご本人が不安や不満に思っていないか、どう過ごしたいのか見極め、それに合わせて支援している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 衣服は常に清潔な状態で着て頂けるよう支援している。髪の毛の長さはご自分の好みとし、毎朝結い上げるお手伝いをしている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事の準備、片づけ共にお手伝いをしています。食が進むような声かけをしています。 | 利用者の希望も取り入れて献立を立て、食材を購入し、ホーム内で調理し提供している。配膳や後片付けは希望者が行っている。年に数回、中華や和食レストランでの外食が企画され、食事の楽しさにつながっている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事量や水分チェック表に応じて、食材のバランス、硬さ、トロミのつけ方など気をつけている。いつまでも自力摂取ができるように声かけや見守りをして食事の支援をしている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後の口腔ケアを実施し、義歯の手入れ、舌の汚れとり、自力では難しいところなど、声かけや一部介助を行ったりと支援している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価(事業所記入) | | 外部評価(ACOPA記入) | |
|----|------|---|---|---|-------------------|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄チェック表を元に排泄パターンを把握し、失敗の無い様に声かけ・誘導を行い支援をしている。 | リハパンの使用をできるだけ抑えて自分の下着をつけ自分で歩いてトイレにいけるよう援助している。排泄の意思表示が困難な利用者には排泄チェック表やパッドの状態を排泄間隔を把握し声掛けしてトイレに誘導している。 | | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 薬に頼らず飲食物や運動での取り組みをしている。 | | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 入浴日は決まっているが、入浴を楽しめるように努めている。出来る範囲で長く浴槽に入りたい、髪洗い方などの希望を優先している。 | 散歩などの時間をできるだけ多く取りたいため、入浴は事業所が設定した入浴日に個浴を行っている。朝9時から昼過ぎまでの時間の中で順次入るが、入浴時間の長短などで本人の希望に沿うよう努めている。 | | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 寝具類を清潔に保ち、昼夜逆転せず夜眠れるように日中お声かけもしつつも、体調に応じて日中休息して頂くようにしている。 | | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 服薬の際はダブルチェックで誤薬を防止し、薬の内容が変更された時には症状の変化に気を付け報告している。 | | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 生活の中でできることを行って役割を持って頂くことで張り合いや手助けできることに楽しみをもってもらえるように、またレクを通して喜びや楽しみを実感できるように支援しています。 | | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 天候に応じて毎日散歩へ行っている。散歩が好きな方は2~3回行くこともあり希望に沿えるよう努めています。 | ほぼ毎日午前か午後で散歩に出ている。本人の状態に応じて近距離や中距離の散歩コースを設定し、季節ごとに花見や夏祭りに出かけている。アンケートでも日常の外出に対して高い評価が得られている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価(事業所記入) | 外部評価(ACOPA記入) | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | お金は事務所管理となっている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 手紙や季節のはがき作りを支援することにより行っている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共用の空間はご利用者と一緒に毎日掃除している。季節に応じた壁飾りを作り、飾りつけをして季節感作りにも工夫している。 | 窓が広く天井も高く開放感のある明るい空間となっている。季節の飾りつけを配して季節感を感じられる快適な場が作られている。浴室は要所要所に手すりを配置し、脱衣場も含めてヒートショックへの対応もなされている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 相性など把握し、居心地が悪くならないよう、1人にならないように間にスタッフがいたり工夫している。食後のテレビを見る時間は思い思いに過ごせるように座席を自由にしている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居時に使い慣れた家具や家族の写真、お気に入りの物などをお持ちいただくようにしている。 | 自宅で使いた家具を持ち込んだり、飾り物をしたりと利用者に応じた居心地のよい空間づくりがされている。ベッドでの寝起きではあるが、一日のメリハリをつけるために朝晩の布団たたみや布団敷を利用者と一緒に行っている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 居室やトイレ、食事の座席にはわかるように目印がついている。 | | |